学校番号	２０４

平成３１年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高校美術３（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術Ⅲでは、テーマ設定・表現形式の選択・制作の計画立案を自分で行い、課題に取り組みます。
・美術Ⅰ・Ⅱで学んだことを生かしながら自分なりの表現を追及し、卒業制作にも挑んでもらいたいと思います。また、作家の表現技法を研究し、取り入れたい表現を制作に生かせるよう指導を行います。
・制作の中間報告・完成作品の鑑賞を行う時間を設定し、相互に作品の鑑賞することで（感想や意見を出し合い）、自分の表現を高められるようにします。また、作品のコンセプトや工夫点などを発表する機会をつくることで、プレゼンテーション能力を高めます。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心を持ち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、独創的な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表している。	美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっている。
評価方法	ワークシート 制作の様子 作品	アイデアスケッチ ワークシート 制作の様子 制作途中の作品 作品	制作の様子 （道具の扱い方） 制作途中の作品	発表態度 鑑賞態度 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	オリエンテーション	【鑑賞】 ・自己紹介 ・昨年度の振り返り、教科書等の鑑賞を通して「美術Ⅲ」の学習イメージをもつ。 ・デッサン	○	○	○	○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。モチーフを自分で配置し、対象をよく見て描こうとしている。 b:対象を見つめ、形態の特徴をつかみ、構成を工夫している。画用紙にバランスよく対象が入るよう、モチーフの配置を工夫している。 c:鉛筆の特性を生かし、陰影をつけるなど工夫して表現している。 d:美術の働きについて理解を深めている。	学習活動の様子 作品
	一瞬を切りとる	【映像メディア】 卒業学年として、学校生活をふり返り、当たり前に過ごしてきた場所をもう一度見つめ直す。 ・学校内の写真撮影を行う。 ・学校の中の何気ない情景を写真で切り取り、学校での思い出や自分の考えを表現する。 ・印刷し、できあがったオリジナルの1枚を紙に貼って鑑賞会を行う。	○ ○	○	○	○ ○	a:写真表現に興味を持ち、制作や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b:カメラの特性を踏まえ、ピント、シャッタースピード、構図、露光など表現を工夫して構想を練っている。 c:シャッタースピード、露光などカメラが持つ特性を理解し、意図に応じて表現を工夫している。 d: 作者の意図や表現の工夫を感じ取り、作品について理解を深めている。	学習活動の様子 制作の様子 作品 鑑賞の様子 ワークシート

	銅版画	【絵画・彫刻】 ・版画の種類、エッチングの技法について学ぶ。 ・「想像の世界」をテーマに下書きをし、銅版に転写する。 ・ニードルで下書きを削り、版を完成させる。 ・版画の刷り方を学ぶ。 ・版にインクをつけ、プレス機で刷る。 ・できた作品を鑑賞する。	○ ○ ○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○	○	a:想像の世界を表現すること、銅版画で表現することに関心を持ち、表現形式の特性を生かして主体的に表現しようとしている。 b:感性や想像力を働かせて主題を生成し、構図、形体などを工夫して構想を練っている。 c:凸版、凹版、孔版の版画の違い、エッチングの特性・制作手順を理解している。技法の特性を生かし、表現方法を工夫している。 d:作者の意図や表現の工夫を感じ取り、作品について理解を深めている。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品 鑑賞の様子
2学期	日常を彩るうつわ	【絵画・彫刻】 ・うつわをデザインする。 ・ひもづくり、たたらづくりを学ぶ。 ・ボウルもしくは皿どちらを作るか決め、粘土で成形する。 ・表面を磨いて仕上げる。 （釉がけ・焼成は業者にお願いする） ・できあがった作品を鑑賞し、作品について発表する。	○ ○	○	○	○	a:粘土で器をつくること（陶芸）、器の用途を考えて表現することに興味を持ち、丁寧に表現活動に取り組もうとしている。 b:素材の特性を生かし、形体や装飾を工夫して構成を練っている。 c:たたら作り・ひも作りの特性を生かし、構想を元に表現している。作る器に合わせて技法を選択している。用具の特性を理解し、工夫して表現している。 d:できた作品を鑑賞し、工夫した点・苦労した点などを発表する。他者の作品を鑑賞し、他者の思いや作品のよさを感じとっている。	制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート

	大作に挑む	＜卒業制作＞ A. 絵画（油絵またはアクリル画F50号以上のもの） B. デザイン（B全版） ・AまたはBで自分が表現したいものを選択し、テーマも自ら決めて、制作に取り組む。 ・発想から完成までの計画表を作成させ、中間講義を行いながら制作を進める。 ・完成したら、自分の作品についてプレゼンテーションを行う。	 ○ ○	 ○	 ○	 ○ ○	a：自ら生成した主題を表現することに興味を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 自ら計画を立て、主体的に制作を進める。 b：自ら主題を決める。テーマを基に感性や想像力を働かせて主題を生成し、表現形式の特性を生かして、形体・構図・色彩・技法を工夫して構想を練っている。 c：意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して主題を追及している。 d：中間講義の発表で、他者の効果的な表現や工夫点を理解し、自分の作品に生かせるようにする。最終講義では自分の作品についてプレゼンテーションを行い、制作意図を他者に伝える。	アイデアスケッチ 計画書 制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート 鑑賞の様子 発言内容
3学期	石こうでつくる抽象彫刻	【絵画・彫刻】 ・針金、木材、麻ひもで立体の骨組みをつくる。 ・石こうの特徴を知る。 ・主題を決め、石こうを自分たちで準備し、骨組みに塗り、彫刻をつくる。 ・作品の鑑賞会を行う。	 ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○	 ○	a：石こうで表現すること、自己の内面を見つめて表現することに関心を持ち、表現や鑑賞の活動に主体的に取り組もうとしている。 b：自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから主題を決め、素材や表現形式の特性を生かし、想像力を働かせて構想を練っている。 c：石こうの作り方や用具の扱い方を理解している。石こうや用具の特性を生かし、表現方法を工夫表現している。 d：作品の主題や作者の意図を感じ取り、作品についてのよさや美しさを理解している。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品 鑑賞の様子
	まとめ	【鑑賞】 ・作品返却。 ・授業を振り返り、プリントに感想、自分の考えを書く。	 ○			○	a：１年を振りかえり、授業で学んだ技法を思い出し、授業の感想を書こうとしている。 d：自分の作品や他者の作品を鑑賞し、１年の振りかえりとしてプリントを記入する。	学習の様子

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。